



市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお市政直便

2011年8月20日
NO.28

【編集・発行】
長野市議会議員・布目裕喜雄
布目ゆきお後援会事務所
長野市安茂里 3605-1 ☎217-5810

住民投票実施の立場で条例案を発議

議員提案条例、21対18の僅差で否決に

第一庁舎・市民会館の建て替えの賛否を問う住民投票条例の可否が最大の焦点となった市議会は、8月17日の最終日、市民団体が求めた直接請求条例と議員提案した条例案、ともに賛成少数で否決されました。極めて残念な結果で、しかも僅差での否決には悔しい思いが募ります。しかし、これで「終わり」にはなりません。民意に基づく市政の実現に向け、議会が負わなければならない責任は、今まで以上に重くなっているからです。議会への厳しい視線に向き合い、市民の信頼を取り戻していくために力を尽くす所存です。

第一庁舎・市民会館の建て替え賛否、別々に問う条例案を提案

■議員提案条例の発案者として力尽くす

私は、第一庁舎と市民会館の建て替えについて、住民投票を実施し、市民の市政参画を促進するという考えに立ち、一つにそれぞれ役割の違う施設である第一庁舎と市民会館を、別々に賛否を問うこと、二つに市民に対し十分な周知期間を設定すること、三つに成立要件を定めるとともに、不成立の場合でも開票し結果を告示することなど、新たな視点から、直接請求条例案を補強する独自の条例案を発議、議員提案しました。

■市長に住民投票の意義を質す



一般質問では、「住民投票条例は必要なし」とする市長に、「住民投票は、市長と議会の二元

代表制を補完する役割を担う」とし、住民投票の意義を質しましたが、市長は「住民投票は否定しないが、どのように場合に住民投票が馴染むのかの議論を尽くした上でこそ、『補完』する機能の発現が期待できる」と述べ、「多面的・総合的な事業は住民投票に馴染まない」との発言を繰り返すにとどまり、平行線に終わりました。【写真は長野市イ

ンターネット市政放送より】

■「議会で決めたこと」に絶対はない

問題は議会が市民の求めにどう向き合うかにあります。しかし、「議会で既に決めたことだから、もう市民の意見を聞く必要はない」として条例案に反対する議員の姿勢は、余りに傲慢なのではないでしょうか。「議会で決めたこと」に絶対はありません。これでは、市民の議会に対する信頼を自ら壊すことにつながってしまいます。

■「3.11」は見直しの転換点

3月11日の大震災を受けて、今後の巨額な復興財源の有り様を考え、「見直すべきは見直す」とすることが、行政を監視・チェックすることこそが議会の役割だと考えます。3.11は市民にとって、この国の形、地方自治体の形について、見つめなおし考え直す、転換点になっていることを直視すべきです。

■条例案否決に反対討論

最終日、議員提案条例を否決した総務委員長報告への反対討論を行いました。最大会派の所属議員の心を動かしたいとの想いで討論に立ちましたが、叶いませんでした。

■市民に向き合い、議会の責任果たす

条例案は否決されましたが、市民の自治力を信じ、市民の信頼と負託に応えられる議会を体現するため、これからも力を尽くす決意です。

市民が主役のまちづくりを！必要度・優先度を見直すとき！

防災拠点＝第一庁舎建設は最優先で！

市民会館は基金を積み立て、将来に備えを！もっと市民的議論を

住宅リフォーム補助が実現

緊急経済対策の一環で、個人住宅のリフォーム補助制度を創設。対象工事の15%、最高限度額15万円まで補助されます。申し込みは9月1日から30日まで、先着順です。詳細は長野市建設部住宅課まで(☎224-5127)

利用料値上げは活力喪失に 値上げ凍結を求め続ける

市では講座受講料や施設入館料、がん検診など70の行政サービスで値上げを検討。私は一貫して、苦しい家計状況に鑑み、値上げ凍結を主張してきました。結果、児童センターは無料継続、少年科学センターや博物館の入館料は据え置きとなりました。

がん検診受診料値上げも 据え置きに

今年4月から値上げを予定していた受診料値上げに対し、「まずは受診率の向上に力を注ぎ、市民の健康を守ることが大事」と訴え、据え置きを実現しました。しかし、検討は継続するとされ、今後も負担増に厳しい監視が必要です。

また、水道料金の値上げでも「負担が重すぎる」と指摘、原案の下方修正を提案し実現しました。

地域公共交通の再生…

長野電鉄屋代線の存続に努力

地域公共交通の再生が喫緊の課題となる中、市民の足を守るため奮闘。交通空白地域の解消や市内路線バスの維持・利便性の向上、ICカード乗車券の導入に力を注ぐとともに、公共交通利用促進エコポイント制度などを提案してきました。また、長野電鉄屋代線が住民合意がないまま「見切り廃止」されることに異議を唱え、沿線住民と連携しながら存続を働きかけ続けてきました。状況は極めて厳しいものがありますが、「乗って残す公共交通」を掲げ、市民の足を守るために引き続き力を尽くす決意です。



児童センターの拡充に努力

放課後の子どもの安心な居場所を確保するため、学校施設を利用した放課後子どもプラザの拡大に取り組むとともに、定員オーバーとなって

いる児童センターの拡充こそ必要と取り組んできました。今後も引き続き、力を尽くす決意です。【写真は松ヶ丘児童センター】



市民の安心・安全第一に セーフティネットの拡充求める

日々の暮らしに安心と安全が実感できるよう、子育て・子育て支援、福祉の充実、雇用の確保を求めるとともに、命綱となるセーフティネットの拡充を提案してきました。

市民会館建て替え、 権堂から現在地に転換を主導

第一庁舎・市民会館の建て替え問題では、当初から市民会館の権堂案に反対し現在地での建設を提唱、建設地転換をリードしてきました。

そして今日、大震災を踏まえ、第一庁舎は防災拠点として最優先で建て替えを、市民会館はさらに基金を積み立て将来に備え先送りをと提案しています。市民会館はどんな芸術文化活動の拠点としていくか、もっと市民的議論が必要になっていると考えるからです。

住民投票条例の制定に尽力

市民の直接請求により制定が求められる住民投票条例。市民が直接、政策決定に参画する住民投票条例を実現するため、独自の条例案を発議、力を尽くしました。【1面参照】

議会改革の先頭に 議会基本条例制定をリード

議員の不祥事を契機に、議員の政治倫理条例を制定するとともに、議会の『憲法』である議会基本条例の制定をリード。

議会に対する不信、厳しい視線を真摯に受け止め、議会自身がこれまでの在り方を謙虚に見直し、もう一つの住民意思を代表する機関、自治立法を担う自治体の意思決定機関として活性化し、市民の信頼を取りもどすために全力を尽くす決意です。

**市民感覚を原点に
長野市の将来を見つめ
市民の幸せを願って行動します**